

**建築構造設計・技術開発における専門家の倫理に関する達成目標リスト
(略称:倫理目標リスト)**

実務では、諸環境・諸条件を考慮し、下記各項目をバランス良く判断すること。

大項目(緑色欄): 行動理念

小項目(白色欄): 具体的行動内容

1. 真実か否かに従って判断する。

幸いにそれが確認できる場合は、真実に従って判断すべきである。
常に中立の立場で技術的・理論的に正しいことを貫く。

2. 社会が許すか否かに従って判断する。

法とその精神を遵守し、基本的人権を尊重する。
コンプライアンスを遵守する。すなわち、法令遵守だけでなく、社会が組織や個人に対して求める倫理観や社会常識に沿って、誠実に行動する。
全ての人々を思想・宗教・人種・国籍・性・年齢・障害に囚われることなく公平に扱う。
最低基準としての法令遵守だけでなく、専門家に対する社会の期待と要請に応じて、それを更に上回る良質の建築物を生み出す。
個人の興味だけでなく社会全体の安全に寄与するマインドも併せ持つ。
情報をすみやかに公開し、知り得た事実を決して隠蔽しない。
捏造、改ざん、偽装などの不正行為を行わず、許さず、加担しない。
業務の受託は公正な競争に基づいて行う。
適正な報酬を保証する。

3. 平常時だけではなく非常時の判断を予測する。

非常時に至ったときにその判断が正しかったと人々に思われるかどうかを事前に予測する。
非常時に生じることとその対策を段階に分けて考える。

4. 経験を過剰に重視せず想像力を過剰に軽視しない。

経験に基づいて現象やその発生様式を一般化するだけでなく、健全な想像力や直感を働かせ、一般化されたものに加えて新たな課題を見出し設定する。
過去に事例がなくても可能性やその仮説を安易に排除しない。

5. 先入観を捨てる。

素朴な疑問や直感には素直に向き合う。
決まり事を随時見直し、必要なら修正し、不要なら廃止する。

6. 完全主義を捨てる。

完全を目指して努力することは大事だが、人知は不十分・不完全で完全を前提としてはいけないので、二者択一思考よりも積み重ね思考を尊重する。
完全・絶対であると断言しない。

7. ミスを防ぐ。

活動に関係する既往の知見を事前に十分に調査し、ミスの原因と成り得る要因を事前に予測し取り除く。
生じてしまったミスを発見しやすい環境を事前に準備する。
時間に追われて激務で疲労困憊しないように余裕ある環境と工程を作る。
注意を怠らない。十分に注意して作業する。

8. 精神の自由を尊重する。

優れた研究・開発には精神の自由が最も大切なことを理解する。

9. 独創性(オリジナリティ)を尊重する。

他者の知的財産権と知的成果を尊重し、著作権を侵さない。

10. 新規性を尊重する。

今までないあるいは馴染みのない新しい考え方を安易に排除しない。
学術の発展と文化の向上に寄与する。

11. 客観性・説明性を重視する。

過去の基準の成り立ちを正確に理解した上で最新の知見を盛り込み、常に新しく幅広い知識を得るよう努力しながら、社会に貢献する。
技術上の主張や判断に際しては、自己および組織の利益を優先することなく、学術的な誠実さと公正さを期する。業務内容について中立的立場をとり、社会公共の正しい評価を得られるよう行動し、利益の相克を防止する。
自分の設計した物に責任をもち、責任所在を明確にする。建築が近隣や社会に及ぼす影響を自ら評価し、良質な社会資本の充実と公共の利益のために努力する。
要求性能に対し実現可能な設計を提示し、建築主に情報開示し、平易な言葉で十分に説明し、同意を得る。
業務に関連する事項を可能な限り明文化して客観性や説明性を担保する。

12. 安全性を最重視する。

人類と社会の安全・健康・福祉を全てに優先すると共に、持続可能な社会の構築に貢献する。
他者の生命・財産・名誉・プライバシーを尊重する。
責任の範疇を明確化し、安全に対して広範に配慮する。
安全性が利益よりも優先するという考え方を徹底する。
過去の災害から学び、安全な技術・製品開発を常に模索する。

13. 信頼感を重視する。

常に最新・最善・最良の技術・知見を以て構造安全性を確保し、知識や判断力を磨く努力を怠らず、深い知識と高い判断力をもって、社会生活の安全と人々の生活価値を高めるための努力を惜しまない。
社会に対して不当な損害を招き得るいかなる可能性をも公にし、排除するよう努力する。社会に性能や限界について伝え、損害の可能性を隠さない。
自らの専門分野において情報を発信するとともに、他の職能集団を尊重し協力を惜しまない。
業務を行うのに用いる判断基準を明示する
業務に瑕疵が生じたときは、誠意をもって対応する。

14. 正確性を重視する。

過去の知見・データの確実な蓄積と次世代への確実な伝達、あるいはノウハウの迅速な水平展開を励行する。
理論を正確に把握した上で、技術を正しい条件で利用する。

15. 快適性を重視する。

安全と快適性を両立させるため、深い知識と高い判断力をもって、社会生活の安全と人々の生活価値を高めるための努力を怠らない。

16. 経済性を重視する。

経済性の面から、建築が近隣や社会に及ぼす影響を自ら評価し、良質な社会資本の充実と公共の利益のために努力する。
事業継続性を含めたライフサイクルコストを重視する。

17. 効率性を重視する。

最適な構造形式や使用材料などを勘案して設計し、建築物の質の向上に努める。

18. 環境を重視する。

持続可能な発展を目指し、資源の有限性を認識すると共に自然や地球環境のために廃棄物や汚染の発生を最小限に抑え、技術的判断に際して公衆や環境に害を及ぼす恐れのある要因については時機を逸することなくその情報を適切に公開する。
建築が近隣や社会に及ぼす影響を自ら評価し、良質な社会資本の充実と公共の利益のために努力する。